



Library News

渋川女子高校図書館
2026年度第5号
10月9日発行



HALLOWEENシーズンです！

HALLOWEENについて、生成AIに2つの方法で聞いてみました！

きっと皆さんも使っている生成AI、いろんなことを尋ねていると思います。尋ねる際に、AIへの役割の与え方（ペルソナの設定）で、提示される情報の精度や質が異なるっていうのは有名な話です。Halloweenの時季でもあり、意外とよく知らないなあと思い、Geminiに聞いてみることにしました！1つは専門家、もう1つは何も役割を与えず、です。では、違いをご覧ください！

あなたは宗教学・西洋民俗学を専門とする大学教授です。ハロウィーンのジャック・オー・ランタンの歴史的背景、宗教的・文化的な意味合いについて、正確で詳細な解説を行ってください。また、根拠とする情報は一次情報で、かつ学術的資料に限定します。説明は、箇条書きで分かりやすくしてください。

宗教学および西洋民俗学の観点から、ジャック・オー・ランタン（Jack-o'-lantern）の歴史的起源、宗教的・文化的意味合いについて解説します。

本解説における知見および根拠は、ケルト民族学・比較神話学の基本資料（ガイエル・ケルトの古文書、近世アイルランド・スコットランド民俗誌）および19世紀～20世紀初頭のアイルランド王立アカデミー（Royal Irish Academy）等による民俗学調査報告などの学術研究に限定しています。

1. 起源とケルトの古代信仰（サウィン祭）

- サウィン（Samhain）祭との結びつき
 - 古代ケルト人の暦において、10月31日の夜から11月1日は夏の終わりと冬の始まりを意味し、一年の境目にあたる「サウィン祭」が催されていました。
 - ケルトの宇宙観において、年の境目は「現世（生者の世界）」と「常世（異界・死者の世界）」の境界（Liminality）が最も曖昧になる瞬間と考えられていました。
- 元来の彫刻対象は「カブ（Turnip）」
 - アイルランドおよびスコットランドの古い民俗資料によると、元々はカブ（Turnip）、デコカブ（Swede）、またはジャガイモやビートの内部をくり抜き、炭やろうそくの火を灯していました。
 - カブのランタンは、サウィンの夜に異界から現世へ迷い込んでくる死者の霊（Ancestral spirits）や悪霊、妖精（Aos Sí）の目を眩ませ、魔除けとする道具として用いられました。

2. 民間伝承「提灯ジャック（Stingy Jack）」の宗教的・倫理的意味・・・（続く）

ハロウィーンのジャック・オー・ランタンの起源について教えて。

ジャック・オー・ランタン（Jack-o'-lantern）の起源は、アイルランドやスコットランドに伝わるケルト人の伝統と民話にあります。もともとはカボチャではなく、カブ（カブの根）をくり抜いて作られていました。

1. アイルランドの民話「けちんぼジャック」

ランタンの由来となったのは、ケチなジャック（Stingy Jack）という悪知恵の働く男の物語です。

1. 悪魔をだます: ジャックはある日、悪魔を言葉巧みにだまし、「死んでも自分の魂を地獄に落とさない」という約束を取り付けました。
2. 天国にも地獄にも行けない: やがて寿命を迎えたジャックですが、生前の素行の悪さから天国へ入れず、約束通り地獄へも拒絶されてしまいました。
3. 闇をさまよう旅: 途方に暮れるジャックに、悪魔は地獄の火の塊（石炭）を1つ投げ与えました。ジャックはそれをくり抜いたカブに入れ、ランタン代わりにして暗闇を永遠にさまよい続けているとされています。

この「ランタンを持つジャック（Jack of the Lantern）」が縮まり、「ジャック・オー・ランタン」と呼ばれるようになりました。

2. ケルトの祝祭「サウィン（Samhain）」と除霊

古代ケルトでは、10月31日は一年の終わりであり、あの世とこの世の境界が曖昧になり、死者の霊や悪霊がやってくる日と考えられていました。

人々は恐ろしい顔を刻んだカブのランタンを家の前に置き、「悪霊を追い払う魔除け」として利用していました。これが現在のハロウィーンのプロトタイプです。・・・（続く）

違いが見えたのではないのでしょうか。役割や指示の与え方で、さらなる詳細を知る場合に自分で資料を見つけやすくなりました（今回の資料はかなり難しめですが）。自分の調べ事のレベルや詳細度によって、うまく役割や指示を与えながらAIを使えるといいですね！あ、作文やレポートは自分で書きましょうか。全てAIに任せると、脳がうまく機能しなくなるって研究結果が出始めてるそうです。